

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600258		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	埼玉県深谷市西島町2-21-11		
自己評価作成日	平成31年 1月 24日	評価結果市町村受理日	令和元年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	平成31年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは駅から徒歩10分弱ほどの好立地にあり、静かな住宅地に囲まれております。施設内は明るくバリアフリーで車椅子の入居者様も安心して生活できる環境と設備を整えております。地域との関わりを大切にしたいと考えイベント行事には積極的に参加するよう心がけています。食事は全て手作りで家庭的で温かみのあるものを提供、お祝い事にはお祝い膳を提供したり季節の行事に沿った食事を提供しています。又、利用者様に季節感を感じて頂けるよう壁面にも力を入れ楽しい時間を過ごして頂いております。入居されている利用者様一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心がけ、その方の意思を尊重した支援を行うよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事の献立は、各フロアの職員が、順番に利用者の意見を取り入れながら立てている。フロア毎の個々の好みや食事形態等に柔軟な対応が出来、利用者は献立への希望を言い、調理に参加する事により、入居後も主体的に生活を営む人として暮らしている。職員は、日常の中から利用者の思いを知ろうとしており、その思いを受けとめ、応えていく支援をしている。例えば、「花の世話をしたい」という声から、一緒に花の水やりをおこない、利用者の「役割を持つ」という気持ちの満足感につながった。時には、利用者との会話から、入居前の趣味の把握をすることもあり、楽器の演奏をしていた利用者へ、入居の前で演奏を披露する機会を作る等、趣味や楽しみを入居後も続けていけるように工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	しらかば独自の理念を考え、毎月のホーム会議で理念の唱和をしている。また、毎日のケアの実践に取り組んでいる。	理念は、個々の職員が意識し、利用者の生活歴を理解、共有する事で、利用者寄り添った介護に繋がっている。理念に沿った支援をする為に、職員同士で話し合いを持ち、管理者はアドバイスをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントには積極的に参加させて頂いております。	町会の回覧版で情報収集し、自治会主催の「いきいきサロン」や市の祭りに参加している。サロンでは、知人に再会して懐かしみ、話をする利用者の姿がみられる。歌等のボランティアが来所し、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症についての勉強会を行い、ホーム会議でも月ごとにテーマを決めて勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を開催し、ご家族様や区長さん、民生委員の方々からも意見を伺い、事業所からも活動報告や現状をお伝えし、情報交換をすることでサービスの向上に努めている。	多くの家族に参加してもらう為に、開催日を相談して決定した。管理者は、利用者が楽しく生活できるよう、関係者との情報交換を大切に、避難訓練は、会議後参加者と共にをおこない、理解を得ようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政機関の担当者の参加もあり、情報交換をしている。	保険者の対応は、本社担当がおこない管理者に伝えている。事業所の活動、事故報告や書類提出等を介し、相談やアドバイスももらっている。地域包括支援センターにも空室情報を伝えて関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で統一したケアが出来るようホーム会議で話し合い、事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。	毎月の会議で、会社のマニュアル及び具体例を用いて周知している。利用者の対応は、職員間で共有し、不適切な言葉使いについても管理者がアドバイスをおこなっている。職員が、ストレスを溜めずにケアが出来るように勤務日程を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉の虐待等全てにおいて職員間で声掛けし、虐待のないよう意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在の入居者様は成年後見制度を利用されている方はおりませんが、必要に応じて成年後見制度の活用ができるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際は重要事項の説明を行いご家族様、ご本人の不安や疑問を尋ねご理解した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様から日々のコミュニケーションで意見や要望をお聞きし、家族が訪問に来られた際にはその状況をお伝えしている。年1回ご家族様アンケートを実施している。	管理者は、家族の話し難い気持ちを理解しながら、面会時や毎月の様子を伝える電話で、意見を伺っている。家族に日頃の生活を知ってもらう為に、写真を見てもらったり、利用者自身の作った作品を掲示している。	家族の意見を反映しようとしている。今まで以上に連絡を密にし、家族同士が行事等で交流を深める中で、今までと違う視点から意見を伺い、反映していく事を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議で気付きや意見をお聞きし、職員全体で話し合いの場を設け反映させている。	毎月の会議や年2回の個別面談、及び日常的に職員の意見を聞く機会を持っている。レクリエーションの物品購入や業務の流れについて話し合いをしている。例えば、職員の意見に基づき、お花見の場所を決定した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に各自で自己評価をして頂き、今後の目標も挙げて日々の業務に努めている。また、毎月1回は連休をシフトに組み込んだり、家庭状況に応じてシフトに無理がないよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や技量に応じて法人内外の研修に出来る限り参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を事前に聞き取り、職員間で共有してご本人様の安心を確保出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等を事前に聞き取り、いつでも相談していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容をスタッフ間で検討し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを活かした作業をお願いしたり、洗濯物たたみやモップ掛け等の家事を一緒に行うなど、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には日頃の様子を伝えている。また、ご家族様と一緒に外出してもらうなどして共に支えあい、協力して支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人が来訪された際にはご利用者様とゆっくりお話ができる場所を提供している。また、以前から通っていた馴染みのお店に買い物に出掛け、関係が途切れないよう努めている。	友人の訪問時は、お茶を出し、居室でゆっくり過ごしてもらっている。職員と馴染みの和菓子店に買い物に行ったり、以前の職場を訪問して、同僚と会ったりする利用者もおり、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタやゆらゆらゲーム、しりとり、言葉遊びなどを楽しまれたり、発語の難しい方や身体の不自由な方には職員が調整役になって孤立することなく支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在退去された方はおりませんが、サービス利用が終了してもご家族様からの相談を伺いフォローできる支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の日々の思いや意向を汲み取り、把握に努めている。困難な場合はご家族様からの情報も把握し検討している。	利用者の意向は、職員が日常の会話から把握しており、把握が困難な場合は、入居前の情報も参考にしている。意向は、記録に残して共有し、職員同士で話し合いをした後、利用者に提案して意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりをご本人様やご家族様から伺い、職員間でも共有してサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や様子をケア記録に記載し現状の把握に努めている。また、体調の変化や様子も職員間で抜けのないよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム会議でケアマネさんが中心となってモニタリングを行っている。職員間でケアの内容を検討し、統一したケアを行えるようケアプランを作成している。	モニタリングは、職員の意見を参考に介護支援専門員がおこない、介護計画は、利用者、家族、職員、看護師の意見を反映して作成している。定期的な見直しは3ヶ月、変化が有る時や退院後はその都度おこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し、申し送りノートも併用して情報を共有し実践への反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にない気づきが生じた際には、職員間でその都度話し合い検討し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり慰問などを依頼して、各自がそれぞれ楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診と医療連携の訪問によって、急変時でも支持が受けられる体制になっている。往診を受けていない方はご家族様の協力のもと適切な受診ができています。	入居時にかかりつけ医の選択が出来、訪問診療の他、臨時往診も可能である。24時間の連絡体制がとられ、適宜指示を受けられる。家族の通院対応時は、医療連携看護師から医師に情報を伝え、共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の訪問が毎週あるため、皮膚観察や体調の変化を診て頂き、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今日までに入院された方はおりませんが、入院された際には定期的に面会に伺ったり、病院関係者との情報交換や相談を行い把握に努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族様にホームとしてできることを十分に説明し、必要に応じて医師や看護師を交えてケアの方針を検討しチーム支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの指針を説明している。重度化した場合は、再度説明をして医療職、家族を交えて方向性について話し合う。看取りの経験は無いが、会社の研修や看取りの勉強会を通して、今後希望が有った場合に対応していけるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した際には速やかに看護師や管理者に報告し、連絡できる体制になっている。会社のマニュアルはあるが職員間で技量に差が生じているため定期的な訓練をやっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。また、毎日夜勤者が火気関係の自主検査をチェックしている。	災害時の避難マニュアルを作成し、3日分の備蓄品を用意している。全職員が災害通報装置を使い、連絡をする事が出来るよう、地域の人と避難訓練をおこなっている。職員の自主検査が、火災予防になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けやケアに職員全員で努めている。	職員には会議で伝え、申し送りノートを活用して指示をしている。利用者の呼び名や声かけの配慮をおこなうと共に、介護記録は、利用者の目につかない所で記入し、イニシャルで申し送りをする等の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の思いや希望を出せる時間を作り、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に、希望や体調に配慮して1日1日を過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣服を自己決定して頂き、その日の気候や季節に相応しい衣服を着て頂いている。自己決定できない方は職員が選び確認してから着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な献立を作成し、ご利用者様にも好きなメニューをお聞きし提供している。また、季節感を味わって頂けるよう努めている。	職員はフロア毎に、利用者の意見を取り入れて献立を作成し、調理や盛り付け等も一緒におこなっている。行事食の時にランチョンマットを用意したり旬の食材を取り入れる事で、楽しみや季節を感じる事が出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を確認、把握して適量を提供している。水分量は1日を通じて最低1ℓは確保出来るよう測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアをして頂いている。やり方が分からない方には説明や一部介助をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。オムツの方は漏れないような当て方を工夫し、使用を減らせるよう努めている。	利用者のリズムに合わせた声かけをおこない、失敗を減らしてトイレでの排泄に繋げている。利用者の状態により、夜間にポータブルトイレも使用する。失禁時は、何気ない声かけをして羞恥心に対する配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、乳製品や水分の摂取に努めている。入浴時にはお腹周りのマッサージをして頂いたり、適度な運動を行うよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制作りをしている。基本的には各自が均等に入浴できるよう曜日を設定しているが、当日対象者が体調不良や外出・外泊等で入浴できない際は入れ替えをし柔軟に対応している。	フロアに「何時でも入浴が出来ます」と掲示をしており、職員間で連携を取りながら対応している。異性介助の場合は、利用者に承諾を取ってから支援している。ゆず湯や入浴剤を使用して、楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息できるよう支援を行っている。季節に合わせて居室の温度や寝具を調整し、安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋を保管し、職員がいつでも確認できるようになっている。内服の際は日付やお名前など読み上げ確認を行い、誤薬のないよう努めている。処方の変更があった際には症状の変化の観察などに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。季節ごとの行事やレクリエーションにも参加して頂き、散歩や外出なども計画して気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の希望に沿って施設周辺の散歩や買い物に出掛けている。お花見や買い物ツアーなども計画し出掛けられるよう支援している。	職員と共に、散歩や外気浴をしており、個別で、好みの和菓子や衣類等を買に出かけている。事業所として、外食や花見、市の七夕祭等に行き、今後、いちご狩りの計画がある。家族と自宅へ外泊する等、様々な機会を通して外出が出来るように支援している。	利用者に喜んでもらおうと、様々な外出の支援をしている。利用者一人ひとりの意向に沿って、気分転換が図れるように、さらなる外出の機会作りを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金としてご家族様より頂いている。希望に応じて必要な物品を購入したり、買い物などの支援をして金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様や大切な人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室やホール、玄関、トイレなどの清掃を行い、居心地良く過ごせるような環境美化に努めている。季節感を感じて頂けるよう季節毎に壁面や飾りつけにも工夫している。	季節毎の壁面装飾は、利用者と共に作っている。利用者主体の温度設定や夜間のテレビの音量、居室に居間の光が漏れないような配慮をしている。本人や利用者が以前趣味で撮った写真をはる事で、自分の居室が分かりやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを配置し気の合った利用者様同士で談笑して頂いている。畳みのスペースも配置し思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもを持ち込んで頂き、ご本人様に居心地良く過ごして頂けるよう工夫をしている。	タンス、テレビ等の使い慣れた物や季節の花を飾っている。職員は、入居後の購入品を利用者と一緒に設え、家族と相談して、利用者が扱いやすい衣類の量にしている。以前の趣味を、居室で続けている姿も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要なものや導線の妨げになるようなものは避け、安全にできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、トイレや浴室には認識しやすいように表示をしている。		